

【表紙】

【提出書類】 半期報告書の訂正報告書  
【提出先】 近畿財務局長  
【提出日】 平成24年6月28日  
【中間会計期間】 第65期中(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)  
【会社名】 株式会社 サッパボイラ  
【英訳名】 Sappa Iron Works, Ltd.  
【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 颯波 基一  
【本店の所在の場所】 大阪市北区中津三丁目25番16号  
【電話番号】 06-6371-0433  
【事務連絡者氏名】 取締役 颯波 樟三  
【最寄りの連絡場所】 大阪市北区中津三丁目25番16号  
【電話番号】 06-6371-0433  
【事務連絡者氏名】 取締役 颯波 樟三  
【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

1 【半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成22年12月27日に提出いたしました第65期中（自平成22年4月1日至平成22年9月30日）半期報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

4 【従業員の状況】

（1）提出会社の状況

第2【事業の状況】

1 【業績等の概要】

（1）業績

2 【生産、受注及び販売の状況】

（1）生産実績

（2）受注実績

（3）販売実績

3 【対処すべき課題】

第5【経理の状況】

【注記事項】

（セグメント情報等）

3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_を付して表示しております。

（訂正前）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

4 【従業員の状況】

（1）提出会社の状況

（平成22年9月30日現在）

従業員数（人）	6（0）
---------	------

（注）1．当社は連結子会社を有しておりませんので、従業員数は当社の就業人員の状況であります。

2．臨時従業員数は（ ）内に、当中間会計期間の平均人員を外数で記載しております。

3. 記載なし

第2【事業の状況】

1 【業績等の概要】

（1）業績

当中間会計期間におけるわが国経済は、円高傾向等による景気状況が厳しく、依然として設備投資の減少は改善されず、少ない引き合い、これによる受注の大幅な落ち込みによる厳しい状況が続いています。

このような状況のもと、当社としましては、蒸気機関車用ボイラーの修繕工事が2件と、営業努力により比較的大型で圧力の高い省エネボイラーの受注等もあり、また原価の低減に努めた結果、順調に推移した中間会計期間でありました。その結果として、売上高は146,001千円（前年同期比10.95%の増加）、中間純利益は15,917千円（前年同期比1.92%の減少）となりました。

記載なし

2 【生産、受注及び販売の状況】

（1）生産実績

当中間会計期間における生産実績を事業の種類別に示すと、次のとおりであります。

事業の種類	金額（千円）	前年同期比（％）
ボイラー部門	121,695	234.2
合計	121,695	234.2

（注）金額は製造原価で表示しており、消費税等は含まれておりません。

（2）受注実績

当中間会計期間の事業の種類別の受注状況を示すと、次のとおりであります。

事業の種類	受注高(千円)	前年同期比（％）	受注残高（千円）	前年同期比（％）
ボイラー部門	48,021	53.5	131,963	97.7
合計	48,021	53.5	131,963	97.7

（注）金額には消費税等は含まれておりません。

（3）販売実績

事業の種類別状況は次のとおりであります。

事業の種類		販売高(千円)	前年同期比(%)
製品部門	ボイラー部門	116,619	114.6
	計	116,619	114.6
不動産賃貸収入	マンション	25,265	99.0
	モータープール	4,116	93.9
	計	29,381	98.2
合計		146,001	110.9

(注)金額には消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

当中間会計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

### 第5【経理の状況】

#### 【注記事項】

(セグメント情報等)  
記載なし

(訂正後)

### 第一部【企業情報】

#### 第1【企業の概況】

#### 4【従業員の状況】

(1)提出会社の状況

(平成22年9月30日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)
ボイラー部門	5
不動産部門	1
全社(共通)	1
合計	6

(注)1.当社は連結子会社を有しておりませんので、従業員数は当社の就業人員の状況であります。  
2.臨時従業員数は( )内に、当中間会計期間の平均人員を外数で記載しております。  
3.部門を兼務している従業員がおります。

### 第2【事業の状況】

#### 1【業績等の概要】

##### (1)業績

当中間会計期間におけるわが国経済は、円高傾向等による景気状況が厳しく、依然として設備投資の減少は改善されず、少ない引き合い、これによる受注の大幅な落ち込みによる厳しい状況が続いています。

このような状況のもと、当社としましては、蒸気機関車用ボイラーの修繕工事が2件と、営業努力により比較的大型で圧力の高い省エネボイラーの受注等もあり、また原価の低減に努めた結果、順調に推移した中間会計期間でありました。その結果として、売上高は146,001千円(前年同期比10.95%の増加)、中間純利益は15,917千円(前年同期比1.92%の減少)となりました。

また、セグメントごとの業績は次のとおりであります。

(ボイラー部門)

ボイラー部門の売上高は116,619千円となり、営業利益は7,196千円となりました。

(不動産部門)

不動産部門の売上高は、29,381千円となり、営業利益は18,646千円となりました。

#### 2【生産、受注及び販売の状況】

##### (1)生産実績

当中間会計期間における生産実績をセグメントで示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
ボイラー部門	97,566	187.8
合計	97,566	187.8

(注)金額は製造原価で表示しており、消費税等は含まれておりません。

##### (2)受注実績

当中間会計期間における受注実績をセグメントで示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
ボイラー部門	48,021	53.5	131,963	97.7
合計	48,021	53.5	131,963	97.7

(注)金額には消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当中間会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
ボイラー部門	116,619	114.6
不動産部門	29,381	98.2
合計	146,001	110.9

(注)金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

当中間会計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

第5【経理の状況】

【注記事項】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当中間会計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は「ボイラー部門」及び「不動産部門」を展開しており、製品・サービス別の区分により経営を管理しております。従って当社における事業セグメントは、製品・サービス別セグメントにより識別しており、「ボイラー部門」及び「不動産部門」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

ボイラー部門においては、汽罐及び付属品の製造、販売並びに据付、解体、配管工事請負を実施しております。

「不動産部門」においては、マンションの賃貸及びモータープールの経営を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「中間財務諸表作成の基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	中間財務諸表計上額
	ボイラー部門	不動産部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	116,619	29,381	146,001		146,001
セグメント間の内部売上高又は振替高					
計	116,619	29,381	146,001		146,001
セグメント利益	7,196	18,646	25,842		25,842
セグメント資産	354,855	271,874	626,729	36,875	663,604
セグメント負債	320,979	64,290	385,269	11,265	396,534
その他の項目					
減価償却費	650	4,604	5,254		5,254
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	400		400		400

(注)1. セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、現金預金35,840千円が主なものであります。

2. セグメント負債の調整額は、各報告セグメントに配分していない未払法人税等7,700千円及び未払金1,659千円が主なものであります。

【関連情報】

当中間会計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報」. 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の

項目の金額に関する情報」に記載のとおりであります。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
西日本衛材(株)	86,240	ボイラー部門
三井不動産住宅リース(株)	23,327	不動産部門

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

. 当中間会計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)  
該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

. 当中間会計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)  
該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

. 当中間会計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)  
該当事項はありません。

(追加情報)

当中間会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。